

消費データブック (2026/1/6号)

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慶陽

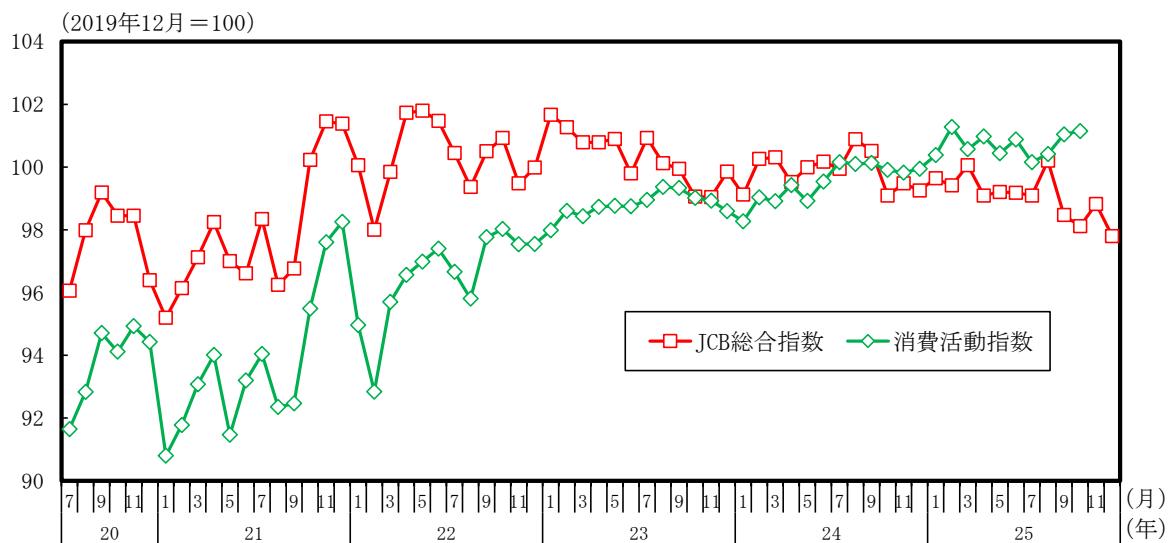
[要約]

- 2025年11月の消費は10月から小幅に減少した。財消費は横ばい圏で推移した。スーパー・コンビニの販売額は増加した一方、新車販売台数（大和総研による季節調整値）は大きく減少した。サービス消費は減少した。外食産業売上高は前年比伸び率が拡大した一方、新幹線や旅客機の輸送量や宿泊は軟調に推移した。
- 12月の消費は11月から概ね横ばいで推移したとみている。財消費は横ばい圏で推移した。新車販売台数（大和総研による季節調整値）は増加した一方、12月前半の実績をもとに試算した家電のJCB消費額（同）は前月から減少した。サービス消費は小幅に減少したとみられる。12月前半の実績をもとに試算したJCBサービス指数（同）は低下した。ただし、宿泊や飲食などは12月後半に需要が拡大するコロナ禍後の傾向や、新幹線や旅客機の年末年始の輸送量が好調だったことを考慮すると、月全体のマイナス幅は小さいだろう。

＜消費全体の動き＞

◆ 【JCB 総合指数】25年12月のJCB 総合指数¹（月前半の実績に基づいた大和総研による試算の季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は前月比▲1.0%だった。内訳を見ると、財は同+0.4%と2カ月連続で増加した一方、サービスは同▲1.8%と2カ月ぶりに減少した。

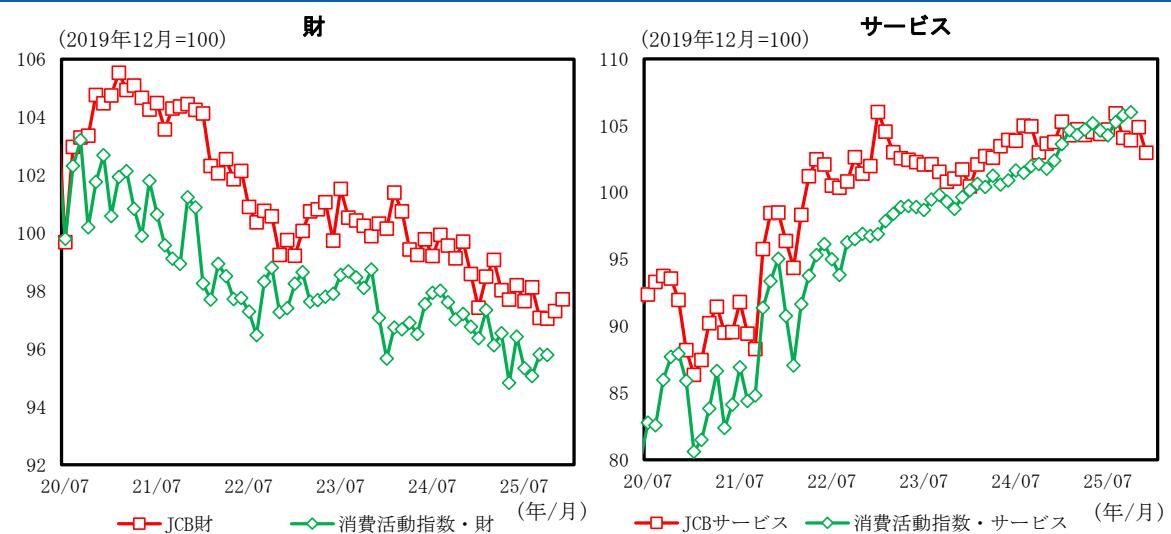
図表1：消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。25年12月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表2：財・サービス別に見た消費の動き



(注1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。それぞれ対応する CPI で実質化。25年12月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(注2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

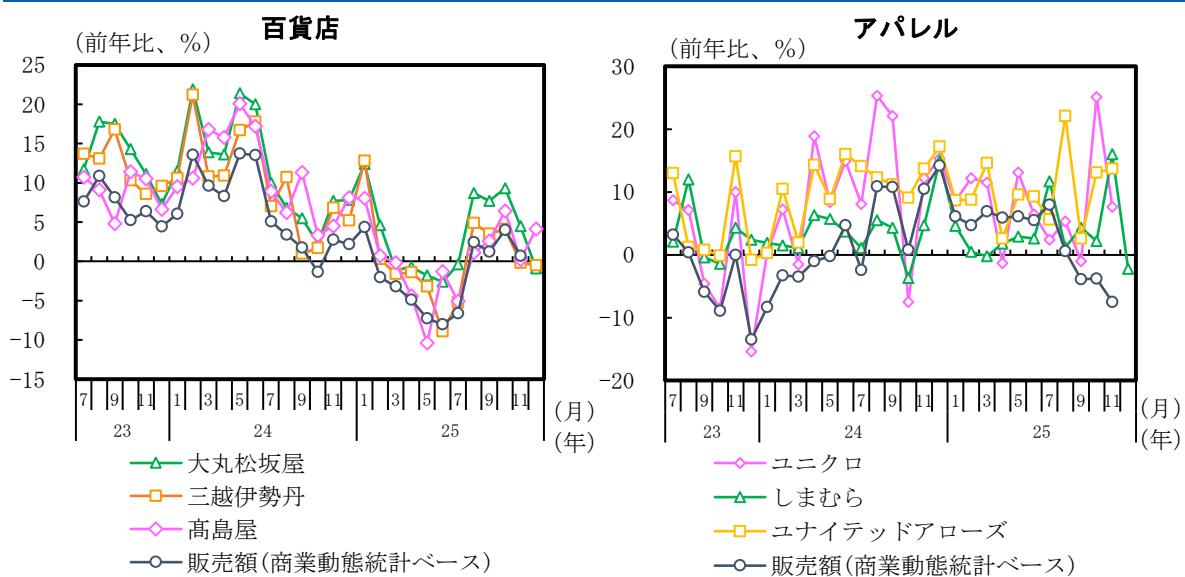
(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約1,000万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関係＞

- ◆ 【百貨店】 25年11月の百貨店商品販売額（商業動態統計ベース）は前年比+0.7%だった。4カ月連続の増加となつたが、プラス幅は前月から縮小した。業界統計から内訳を見ると、衣料品（同+1.5%）や食料品（同+0.5%）などはプラスを維持した。他方、身のまわり品（同▲2.0%）や家庭用品（同▲4.3%）は減少に転じた。
- 25年12月の大手百貨店の既存店売上高は、大丸松坂屋（前年比▲0.5%）と三越伊勢丹（同▲0.9%）は小幅に減少した一方、高島屋（同+4.1%）は5カ月連続で増加した。日中関係の悪化を背景にインバウンド消費が下振れしたことや、対前年同月で休日が1日少なかったことが下押し要因となつた。これらを考慮すると、国内顧客への売上高は引き続き堅調に推移しているといえよう。
- ◆ 【アパレル】 25年11月のアパレル販売額（商業動態統計ベース）は前年比▲7.5%と、3カ月連続で減少した。マイナス幅は前月から拡大した。水準を見ると、25年央まで概ね横ばいで推移していたが、このところ減少傾向にある。
- 25年12月のアパレル大手しまむらの既存店売上高は、前年比▲2.2%と9カ月ぶりに減少した。前年同月が好調だった裏の影響が表れたほか、アウター衣類などの売上が低調だった。

図表3：百貨店・アパレルの販売額



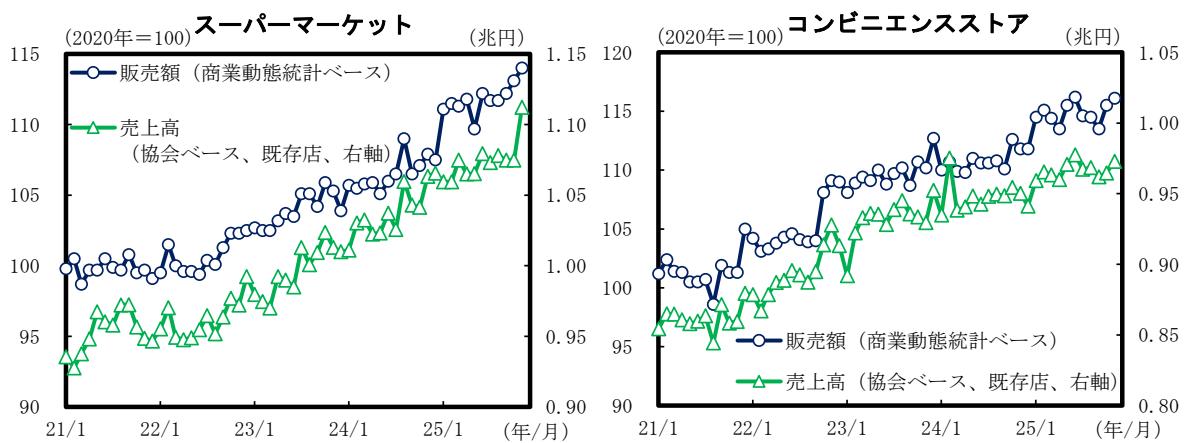
(注1) 百貨店は既存店ベース。三越伊勢丹の25年8月は、24年とのイベント時期のずれによる影響を除いた実態の前年比。

(注2) アパレルは既存店ベース（含むネット通販）。しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。アパレル販売額（商業動態統計ベース）は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。サンプル替えの影響を除いている。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆ 【スーパーマーケット】25年11月の販売額は前月比+0.8%（経済産業省による季節調整値）。飲食料品（同+0.9%）に加え、衣料品（同+9.6%）などが増加した。
- ◆ 【コンビニエンスストア】25年11月の販売額は前月比+0.5%（経済産業省による季節調整値）。2カ月連続の増加。加工食品（同+2.2%）やファーストフード及び日配食品（同+1.6%）は増加した一方、非食品（同▲1.8%）は減少した。

図表4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



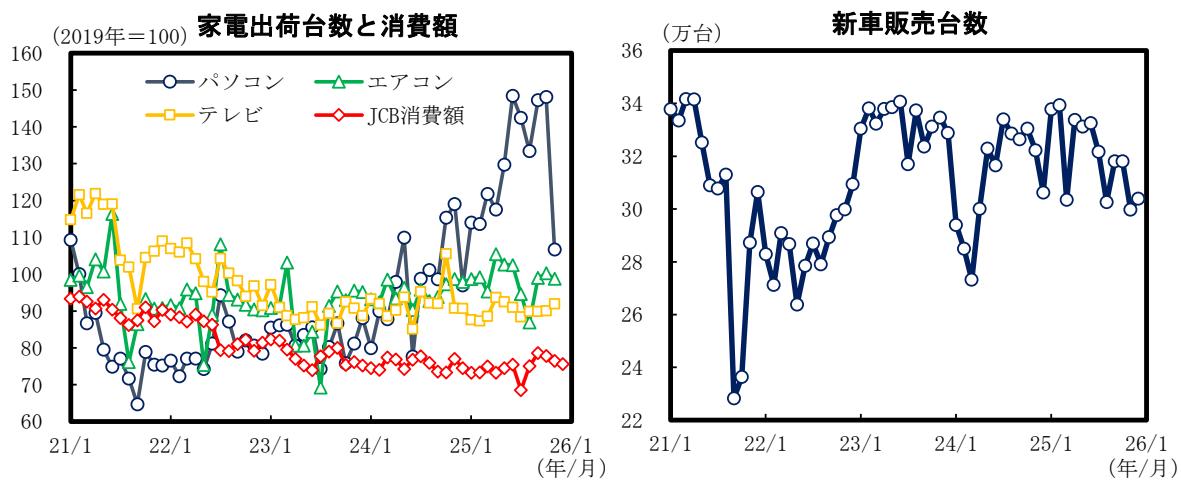
(注) 商業動態統計ベースの販売額は経済産業省による季節調整値。協会ベースの売上高は大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

◆【家電】25年11月の家電大型専門店の販売額（商業動態統計ベース、大和総研による季節調整値）は、前月比+1.6%と2カ月連続で増加した。出荷台数（大和総研による季節調整値）で品目別に見ると、パソコンは同▲27.9%と大きく減少した。25年10月のWindows10サポート終了を受けて前月まで買い替え需要が高まっていたが、その反動が表れた。エアコン（同▲1.4%）も3カ月ぶりに減少した。他方、テレビ（同+2.1%）は2カ月連続で増加した。
25年12月のJCB消費額（機械器具小売業）は前月比▲1.1%と、3カ月連続で減少した。

◆【自動車】25年11月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は、前月比▲5.8%と大きく減少した。小型乗用車、普通乗用車、軽四輪乗用車がいずれも減少した。半導体不足による一部メーカーでの減産の影響が表れた。
25年12月は前月比+1.4%と増加に転じた。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



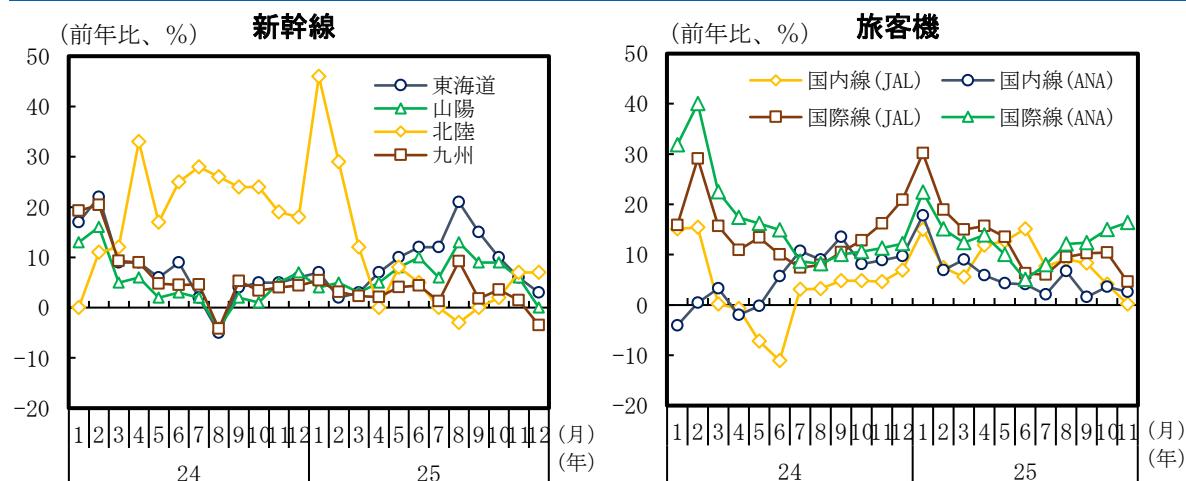
(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。25年12月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

＜サービス関係＞

- ◆ 【新幹線】25年11月の輸送量は、東海道新幹線と山陽新幹線は前年比+6%だった。大阪・関西万博が10月13日に閉幕した影響で伸び率は前月から縮小したが、前年比プラスを維持しており堅調に推移したとみられる。北陸新幹線は同+7%、九州新幹線は同+2%と、いずれも前年比でプラスだった。連休が多い秋の観光需要に応えるため、JR各社は10、11月を中心に新幹線を含む臨時便を運行しており²、輸送量の押し上げ要因となっている。
- 25年12月の輸送量（年末は含まない）は、東海道新幹線が前年比+3%、山陽新幹線が同0%、北陸新幹線が同+7%、九州新幹線は同▲4%だった。九州新幹線は24年8月以来のマイナスとなった。なお、年末年始（25年12月26日～26年1月4日）は、東海道新幹線が前年同曜比+7%、山陽新幹線が同+5%、北陸新幹線が同+9%、九州新幹線は同+1%と、いずれも前年を上回った。
- ◆ 【旅客機】25年11月の国内線輸送量（含むグループ会社）は、ANAが前年比+2.6%、JALが同+0.2%だった。いずれも伸び率は前月から縮小した。国際線輸送量（同）は、ANAが同+16.4%と4カ月連続で伸び率が前月から拡大、JALが同+4.6%と4カ月ぶりに前月から縮小した。国内線、国際線ともに、24年中頃以降は前年比でプラスを維持し、堅調に推移している。
- なお、年末年始（25年12月26日～26年1月4日）の国内線輸送量（含むグループ会社）は、ANAが前年同日比+1.3%、JALが同▲0.4%だった。国際線輸送量（同）は、ANAが同+11.1%、JALが同▲0.4%だった。ANAとJALでまちまちの結果だったが、総じて見れば去年に引き続き堅調だったといえよう。

图表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注1) 25年12月の東海道は22日、山陽・北陸は14日、九州は23日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。

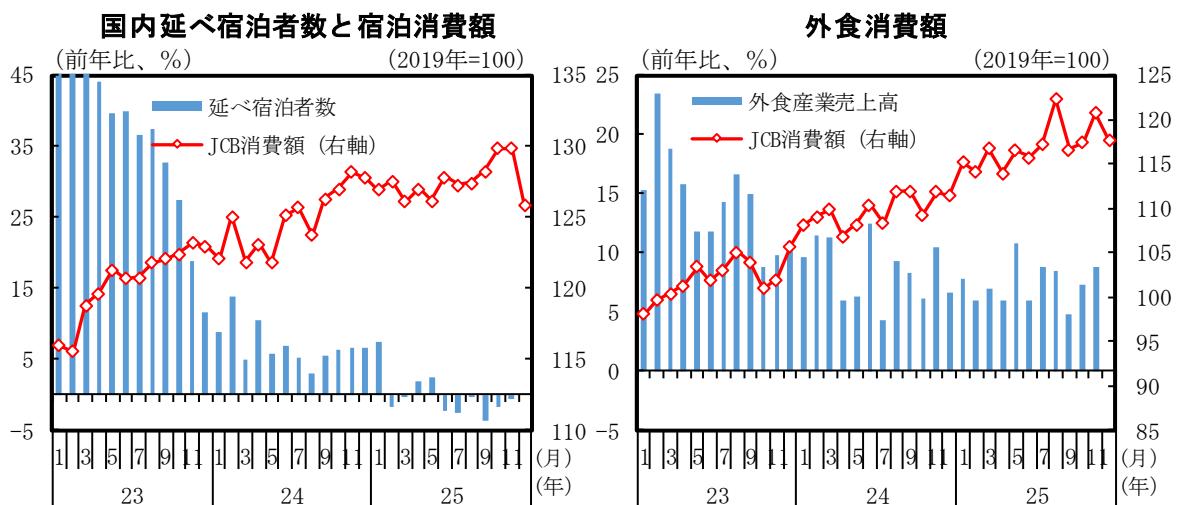
(注2) 北陸は上越妙高～糸魚川間の輸送量。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

² JR東日本「[秋の臨時列車の運転について](#)」（2025年8月22日）、JR東海「[“秋”の臨時列車のお知らせ](#)」（2025年8月22日）、JR西日本「[2025年【秋】の臨時列車の運転について【2025年10月1日（水）～2025年11月30日（日）：61日間】](#)」（2025年8月22日）など参照。

- ◆ 【宿泊】 25年11月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は前年比▲0.7%と、6カ月連続で減少した。ただし、マイナス幅は小さく、概ね24年と同じ水準で推移している。
25年12月のJCB宿泊消費額は、前月比▲3.0%と2カ月連続で減少した。
- ◆ 【外食】 25年11月の外食産業の売上高は前年比+8.7%だった。増加幅は前月から拡大した。21年12月以降前年比プラスが続いている。
25年12月のJCB外食消費額は、前月比▲2.7%（月前半の実績値に基づいた大和総研による試算値）と3カ月ぶりに減少した。ただし、コロナ禍後のJCB外食消費額は12月前半より後半の方が高い傾向にあるため、実際は試算値よりも上振れするとみている。

図表7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）

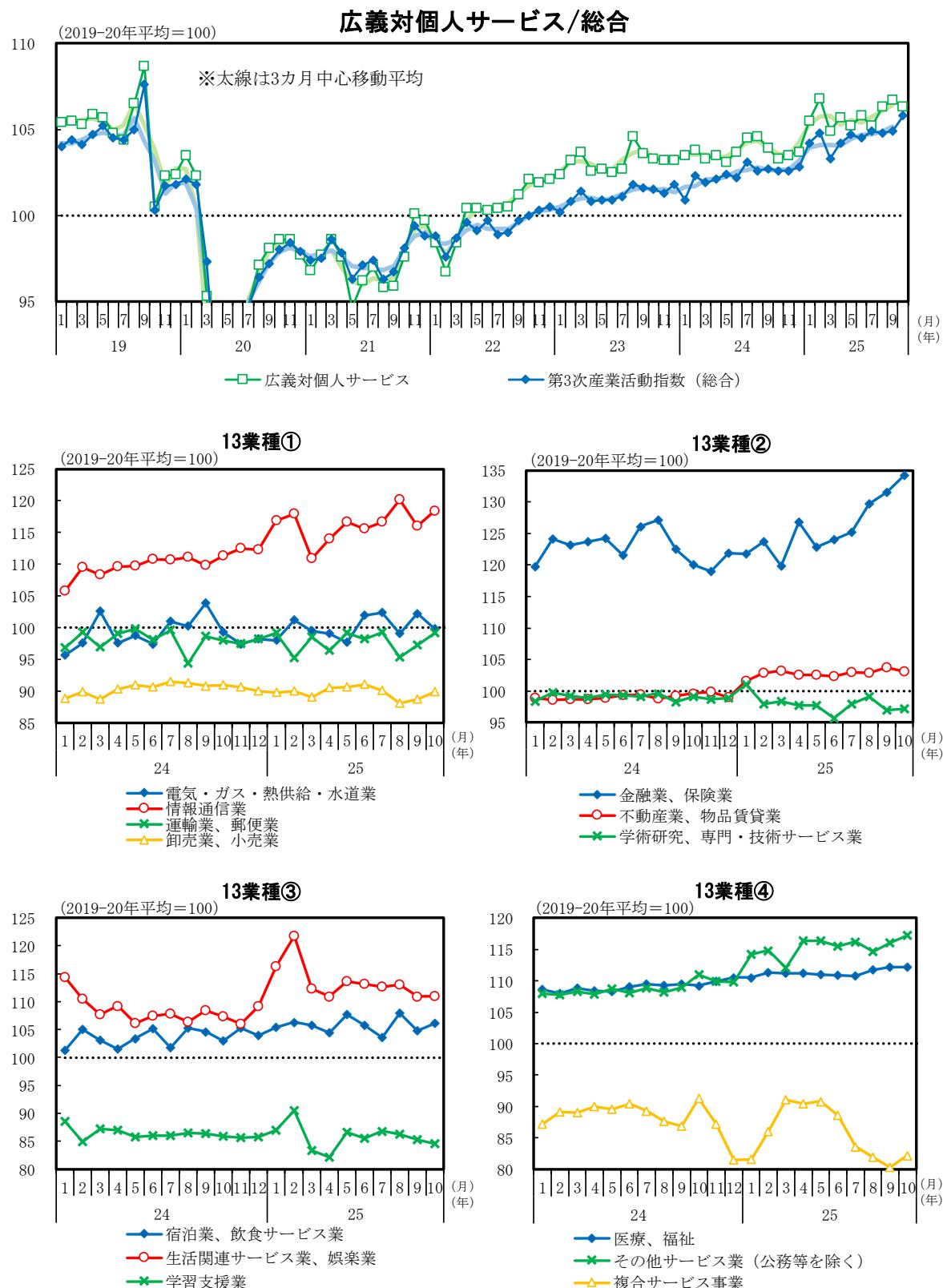


(注) 大和総研による季節調整値。25年12月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。延べ宿泊者数と外食産業売上高の最新値は25年11月。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

＜参考：第3次産業活動指数＞

図表8：第3次産業活動指数

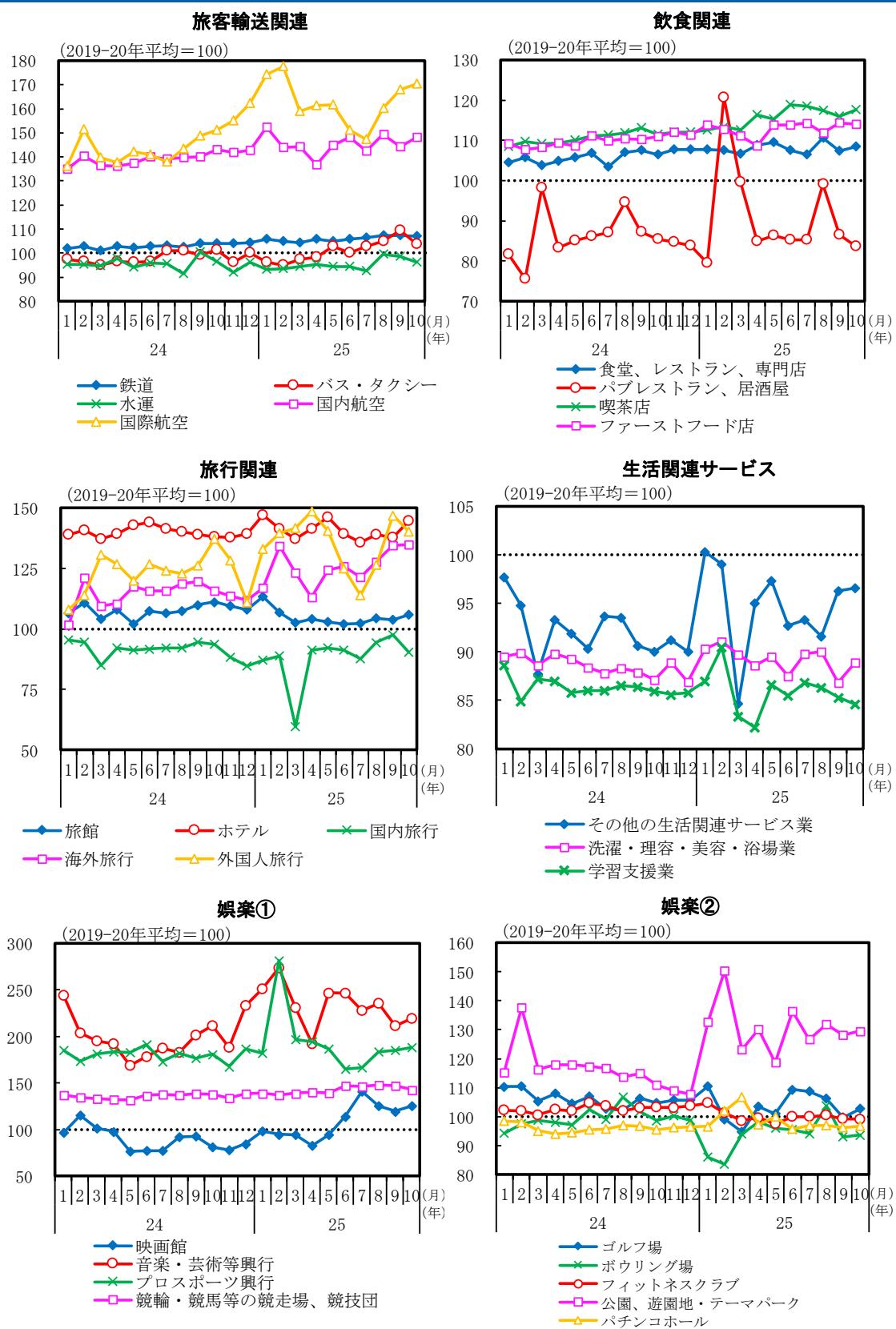


（注1）2020年基準、季節調整値。

（注2）13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

（出所）経済産業省より大和総研作成

図表9：運輸業・生活関連サービス業などにおける第3次産業活動指数の推移



(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 生活関連サービスの「その他の生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。

(出所) 経済産業省より大和総研作成